

令和5年度 藤野地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和6年2月8日（木）午後6時から午後7時30分まで
- 2 場 所 藤野総合事務所4階 会議室
- 3 市側出席者 本村市長、奈良副市長、石原緑区長、若林健康福祉局長、山口都市建設局長、
小山基地対策・中山間地域対策担当部長、関緑区副区長
榎本市民局長
- 4 出席委員等 20人
- 5 傍聴者 6人
- 6 懇談会の要旨

テーマ1	移動支援について
概要	<p>藤野地区は、地区の中央を東西に走る国道20号線沿いから、北は陣馬山がある佐野川地域と、南は奥相模湖がある牧野地域までの中山間地域で、森や湖を有する豊かな自然に恵まれた地区である。</p> <p>一方で、起伏にとんだ地形で集落が点在しており、バスの本数等も少ないため、住民の移動手段は自家用車が主体となっている中、高齢化とともに運転免許証を返納する方もおり、買い物や病院へ行くのに不便や不安を感じている。</p> <p>今年度に「地域おでかけサポート推進事業」の開始や「けんこう号」のリニューアルを行っていただき、地域の利便性の向上につながっているが、現状では運転手や車両を確保することは大変なことであり、今後も人口減少や高齢化とともに、地域における移動支援を担っていく人が少なくなっていくことが予想される。高齢者対策に限らず、移動支援の運転手や車両を確保していく方策について、市と地域が協働してできることを懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<p>1 地域で運行している乗合タクシー</p> <p>(1) 佐野川地域「いくべえカー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉法人「ラファエル会」が無償提供する車両と運転手を活用し、「さっそくいこう会」が実施主体となって買い物や通院への送迎を支援 ・ 利用料金は無料 ・ 利用できる方は、運行区域内の在住者（登録制） ・ 毎週水曜日と金曜日に2ルート（上岩～上野原市、和田～藤野駅）を1往復ずつ運行 ・ 利用者は自宅近くの停留所で乗車し目的の停留所で下車（帰りは逆） <p>(2) 藤野台地域「ももちゃんサロン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤野台地域内の方が、車両と運転手を提供して買物等への送迎を支援 ・ 利用者は藤野台集会所で乗車し上野原市のスーパー等を利用 ・ 通院利用も可能 ・ 利用料は無料 ・ 利用できる方は、藤野台在住の住民 ・ 毎月第2、第4火曜日に1往復運行 ・ 買物終了後、お茶飲み会で交流（参加費200円）

<p>市の取組状況等</p>	<p>本年度から「地域おでかけサポート推進事業」として、外出が困難な高齢者や障害のある方などの移動の支援をする地域のボランティア団体等に、アドバイザーの派遣、担い手の養成講座の開催、ガソリン代等の活動経費の助成をし、身近な地域での「お出かけ」の取組が持続可能なものとなるよう、支援している。</p> <p>また、「介護予防事業送迎けんこう号」は、津久井地域に居住する65歳以上の高齢者等で介護予防事業に参加する5名以上の団体を対象に運行しており、昨年11月にマイクロバス1台からワゴン車3台に更新し、運行範囲も従前の津久井地域から津久井地域とその周辺に拡大するとともに、介護予防事業の前後で、買い物にも利用可能とした。</p> <p>高齢者対策以外に、路線バス等の公共交通を補完する移動手段として、コミュニティ交通を導入している。令和5年度は、新たな移動手段を検討するため、緑区若葉台地域及び南区新磯地区において、時速20km未満で走行する電動車であるグリーンスローモビリティを活用して地域主体の運営による実証運行を実施している。運行内容の検討や運営、実際の運行は地域住民のボランティアで行っており、緑区若葉台地域では、城山地区全体から運営スタッフを募るなど、持続可能な運営体制の構築に向けた工夫を行っていただいている。今後は、地域を拡大した事業展開について検討してまいりたいと考えている。なお、電気代や駐車場代等の費用は「地域おでかけサポート推進事業」を活用いただくことで、負担の軽減を図っている。</p> <p>また、全国的にもドライバーの確保が課題となっていることから、交通事業者やハローワークと運転手の確保に向けた取組を進めており、神奈川県タクシー協会及びハローワーク相模原と連携し、タクシードライバーセミナーの開催を予定している。</p> <p>今後については、引き続き、地域の移動支援の取組の実施や、コミュニティ交通の継続のため、地域組織として利用促進協議会を立ち上げ、交通の在り方について検討するなど地域の皆様とともに利用促進に取り組み、移動手段の確保に努めてまいりたいと考えている。</p> <p>移動支援は、本市において、一番に取り組むべき課題だと思っている。効果が出ずとも、まずは取り組んでみる、導入してみる、ということが大事だと考えている。</p> <p style="text-align: right;">(奈良副市長)</p>
-----------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p style="text-align: center;">懇談内容</p>	
<p>地区の発言</p>	<p>藤野台地域と篠原地域では、地域の方が個人の自家用車を使用して、買い物等の移動支援を担っていただいている。支援を必要とする方は年々増え続けている中、ボランティアの方も高齢化が進んでいる状況である。働いている若い世代がボランティアとして、移動支援をすることは難しいと考える。これから先、地域で運転手や車両の確保をしていくことがとても大変になると感じている。</p> <p>そのためには、市と地域がどのような方法で取り組んでいけば良いのか、どのような取り組みが考えられるか、伺いたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>担い手不足については、非常に大きな課題だと認識している。市では、ボランティアの担い手発掘を目的として、各地区で担い手養成講座等を行っている。また、各区で移動支援の活動発表会を開催し、意見交換会を行っている。今年度か</p>

	<p>らは、ガソリン代等の補助も始めており、このような取組を地道に続けながら、活動の輪を広げていきたいと考えている。 (若林健康福祉局長)</p> <p>移動手段の確保は津久井地域において、一番の課題だと認識している。移動支援ももちろん重要であるが、別の切り口として、住民の方々が地元で買い物ができるように移動販売を検討している。例えば津久井地区では、市と協定を締結しているコンビニエンスストアが移動販売を始めており、他にも新たに導入を検討している地区もある。藤野地区においても、移動せず日常生活の利便性の確保ができないか、という視点でも考えていきたいと思っている。 (石原緑区長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>藤野地区は、地域の方が厚意で移動手段の担い手になってくれているが、いつか限界がきてしまうのではないかと感じている。</p> <p>そのため、例えば、市で車両の確保や運転手を手配していただく等、市民が安心して暮らせるように、一歩前に進んでいただくことはできないか。</p> <p>最初から市内全域を対象とするのは難しいと思うため、まずは藤野地区で実施していただくことを検討いただけないか。</p>
<p>市の発言</p>	<p>現在、市で取り組んでいるコミュニティ交通について、ご説明させていただきます。</p> <p>藤野地区については、主に乗合タクシー、デマンドタクシーを導入しており、菅井地区や吉野地区、与瀬地区周辺で運行している。また、生活交通維持確保路線として、既存のバス路線会社に運行をしていただいているが、なかなか採算が取れない中、運行を継続していただかなければならないということで、市で赤字分を補填する取組をしている。</p> <p>その他、グリーンスローモビリティという、ゴルフ場のカートのような7人乗りの車を使い、若葉台地域や新磯地区において、延べ4か月ずつの実証運行を実施している。来年度以降、通年で運行した利用状況を見ていき、運行基準等のマニュアルを定め、他の地区への導入を検討していきたいと考えている。交通の不便な部分をカバーする目的であり、バス停までの移動やスーパーへの買い物、診療所への通院等に活用いただける。運転手の確保等、地域の皆様の協力がなければ実施できない事業ではある。</p> <p>乗合タクシーは、家からバス停まで行くのが大変だというご意見をいただいていることもあり、ドア・ツー・ドアのような事業として、1回あたり100円程度ご負担いただき、玄関先、若しくは家の近くまで送ってもらえる事業の実証運行を内郷地区で2月中旬から2か月程度予定している。その利用状況等も踏まえた中で、実施に向けた検討をしていきたいと思っている。</p> <p>旧市域においては、コミュニティバスを運行している地域もあるが、車両の大きさ等の都合から現時点で中山間地域には導入していない状況である。 (山口都市建設局長)</p> <p>市で車両やドライバーを確保することは、現在の枠組みではなかなか難しい状況である。まずは、コミュニティ交通や地域のお出かけサポート等を活用させていただきながら、生じた課題に対応していくことを考えている。</p> <p>先ほど副市長の説明にもあったが、けんこう号のリニューアルについて少し触れさせていただきたい。藤野地区での登録・利用状況を確認したところ、現在の登録団体は8団体で利用団体は3団体であった。65歳以上かつ5名以上の団体</p>

	<p>ではなければ登録できない等の条件はあるが、介護予防運動と組み合わせている点がかんりの利点であると考えている。健康を維持しながら、買い物に使えるようリニューアルしているため、是非活用していただければと思う。</p> <p style="text-align: right;">(若林健康福祉局長)</p>
地区の発言	<p>藤野地区においても、バスの停留所や乗車時間に関して、子育て世代や高齢者の買い物や通院等の移動手段に不便を感じており、将来、運転ができなくなった時の不安も感じている。</p> <p>地域でできることは、地域で取り組んでいきたいと思うが、市でも今後の対策を検討していただきたい。</p>

テーマ 2	河川の清掃と整備及び調査について
概要	<p>藤野地区の環境は、河川に大量の雑草や流木等が多く箇所で見受けられており、美化障害や水害を招きかねない状況となっている。</p> <p>自治会でできる範囲の清掃は行っているが、場所によっては危険が伴うため、市ができること、地域ができることを懇談して、より良い環境を保っていきたい。</p> <p>特に、沢井川に関しては、水はきれいだが、雑草や竹等で景観が悪く、陣馬山へ行く観光客に不評である。</p>
地区の取組状況等	<p>各自治会で「クリーンキャンペーン」を実施している。</p> <p>藤野地区まちづくり会議環境部会で、沢井川の現地調査を行い、後日、地元自治会と協働して河川付近の一部の環境整備を実施した。今後は、年度ごとに整備箇所を選定して、ボランティアを募って荒廃地を整備していく予定である。</p> <p>小淵地域の「藤野婦人会」等では、長年、藤野駅周辺の清掃や花壇の手入れを行っており、令和4年度に「相模原市美化運動推進功労者表彰」を受賞している。</p> <p>日連地域の「日連美花会」では、神社境内等への花苗の植栽や沢の清掃、不法投棄の撤去などの環境美化活動を積極的に行い、今年度の「地域活動功労者」として市連会長から感謝状が贈呈されている。</p> <p>名倉地域では、クリーンセンターとパートナーシップ協定を結んでおり、年3～4回のゴミ拾い、草刈り、不法投棄の撤去などを行い、地域の環境保全に努めている。</p> <p>和田自治会でも、クリーンセンターとパートナーシップ協定を結んでおり、陣馬山へ行く和田峠の駐車場までの不法投棄等の確認や草刈りを行っているが、作業距離が長いので全箇所を作業するのは困難である。</p> <p>上野久保自治会では、土砂災害を防ぐために金剛山入口を整備しているが、人手が少なく、思うように作業が進まない。</p> <p>「ふじの里山くらぶ」では、藤野地区内にある荒廃地の整備を定期的に行っているが、すべての荒廃地を整備するのは困難である。</p>
市の取組状況等	<p>地域の取組をお聞かせいただいたが、地域の方々の協力、結束力が素晴らしいと感じた。取組状況の資料で写真を拝見したが、改めて地域の皆様の「この地域を良くしよう」「いつまでも住みよい地域にしよう」という思いが伝わってきた。地域ごとに、様々なことに取り組んでいただいていること、この場をお借り</p>

	<p>し厚く御礼申し上げます。</p> <p>市が管理する河川については、日常的な管理として、河川を適切に水が流れるように、また、沿川の道路や宅地の利用などに支障が出ないように除草や流木の撤去を行っている。このため、住民からの通報のほか、道路パトロール等を月2回実施するなど、現状の把握に努めている。</p> <p>沢井川の管理については、直近では令和5年6月に除草を行っているが、藤野地区まちづくり会議環境部会と地域の自治会の皆様が、川沿いの現地調査や草刈等の環境整備を行っていただいているおかげで、きれいな環境が続き、より強い地域の繋がりができるものと、心強く感じている。</p> <p>より良い河川の環境を維持するために、今後も日常的な管理に取り組んでいくが、電話等でご要望いただいた際には、迅速な状況把握と対応に努めるとともに、日常的な管理の取組の中で、河川の通水機能に支障がある場合は、業者発注等の対応を行ってまいります。</p> <p>現在、環境部会の皆様に実施していただいている環境に関する活動にあたっては、引き続き、地域の皆様の声を聴きながら、連携して取り組んでまいります。</p> <p>地域と行政が一体となって環境美化に取り組んでいきたいと思っている。また鳥獣が隠れやすいという点については、民家にも鳥獣が出てきているという実態があるため、住民の方が不安を感じないように、安全安心のために迅速に取り組んでまいりたい。</p> <p style="text-align: right;">(奈良副市長)</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

懇談内容	
地区の発言	<p>環境整備活動を始めて、3年目を迎える。沢井川の河川整備を実施しているが、資料でご覧いただいている写真は、長い川の中のほんの一部である。その部分だけは通水機能や治水機能は回復してきているが、人間の体に例えると、まだ血管が詰まってる箇所がたくさんあるような状態のため、詰まっている箇所を全部取っていかないと、土砂崩れ等の災害が起きるリスクがある。そのため、河川整備を継続していかないと、土砂災害対策にならないと感じており、災害が起きる前に対処していくことの重要性を2年間、環境整備を行っていて感じている。</p> <p>活動していく上では、やはりマンパワーが必要である。現在は作業日に、イベントのような形で人手を集めているが、自分たちも素人であるため、専門家や技術指導者を呼んだ際に、出せるお金に限られてくる。今後、活動が止まってしまう事態になれば、環境整備も止まってしまう、結果的に土砂災害等を防ぐ活動ができないことも考えられる。その点については、今後なんとかしていきたいと考えている。</p> <p>現在は区役所の地域活性化事業交付金をいただき、3年目の活動を迎えるが、令和6年度末で交付期間が終了するため、その先の資金をどうするかが、課題である。活動する場所はどんどん増えており、良い方向に向かっているが、その分、資金等の面で運営が回らなくなってしまうのではないかとという点が悩みである。</p> <p>市で実施している「不法投棄防止パートナーシップ事業」は、河川の清掃は対象にならないようである。今後も河川の清掃等をやっていく上では、人件費や燃</p>

	<p>料費、材料費、資材費等が必要であるため、そのあたりの活動に対する市からの支援がないか伺いたい。</p>
<p>地区の発言</p>	<p>沢井川は、道路と民家に沿って流れているため、景観はもちろんですが、5年前の台風19号のような大量の雨の際は、倒木等で川の流れをせきとめられ、危険な状況となり、沢井地区に暮らす住民は大きな不安を受けた。</p> <p>また、陣馬山の起点となっている場所でもあるため、溪流の景観も登山者にとって目的の一つであると思う。</p> <p>毎年6月には、自治会活動において、美化キャンペーンを行っているが、担っている方の平均年齢は70歳となっている。</p> <p>現状、自治会において道路の清掃や草刈を行っているが、河川に下りての大量の草刈や撤去となると、危険を伴うため、自治会活動での対応は非常に困難であり、行政の力を借りたいと思っている。</p>
<p>市の発言</p>	<p>地域活性化事業交付金は、地域の皆様が自発的な取組を行う場合、特に地域課題の解決のための取組に活用されているものであるが、ここ数年、緑区が一番活用している。それだけ皆様が地域活動をされており、緑区の中でも、特に藤野地区の皆様に活用いただいているところである。</p> <p>先ほど活動が3年目を迎え、間もなく交付期間を終了するというお話があったが、地域活性化事業交付金の制度の見直しは、これまでも頻繁にやっており、過去には「区長が認める特別な場合には3年を超えても活用できる」という時期もあったが、現在は3年になっている。</p> <p>当該制度の本来の目的は、住民が主体となって取り組むものに対して、市も協働の立場で支援するというものであるため、引き続きこまめな見直しをしなければいけないと思っている。また、予算枠については、これまでも緑区役所の中で工夫を図り、例えば他の地区の執行状況を踏まえ、区役所の中で融通ができないか等の検討をし、なるべく皆様に活用いただけるよう取り組んでいる。</p> <p>地域活性化事業交付金については、先ほどお話をいただいたような取組に、市もどれだけ協力ができるかという視点で、引き続き見直しをしていきたい。</p> <p style="text-align: right;">(石原緑区長)</p> <p>河川の管理について、日頃から地域の皆様のご尽力に大変感謝申し上げます。本来であれば河川管理者として、適正な状態を常に保っていくことが必要であるが、なかなか管理が行き届いていないことがあるのは事実である。</p> <p>陣馬山の景観の観点や治水、流水の観点からも機能の確保は河川の使命でもあるため、市においてもしっかりとやっていかなければならないという認識でいる。</p> <p>先ほど副市長が説明したとおり、道路から含めた点検パトロールを月2回程度実施し、全域を見ており、その中で歩行者や車の通行の支障になるような、道路に枝がはみ出してしまっているような事態等はこまめに対応しているところであるが、なかなか河川の中まで手が回っていない状況である。</p> <p>今、区長から説明のあった地域活性化事業交付金以外の制度として、河川の美化や道路の清掃等を対象とした街美化アダプト制度というものがある。散乱したごみの収集や公共施設内の除草等に対し、当該制度をもって助成をしているものである。助成と言っても、清掃の道具や熱中症対策の飲料水等、主に消耗品の部</p>

分の助成を行っており、実際に南区の河川では活用しているところもある。活用にあたっては、津久井土木事務所が窓口となるため是非ご相談いただきたい。

(山口都市建設局長)

お話にあった燃料代や材料費等の直接的な作業資金に対し、地域活性化事業交付金以外でご活用いただけるものとして、市とNPO法人が資金を出し合い、地域活動等の公益的な事業を支援している「市民・行政協働型運営ファンド ゆめの芽」という制度がある。来年度の募集は終わってしまったが、再来年度の事業として応募いただくことができる。当該制度には、2つのコースがあり、結成したばかりの団体向けファーストステップコース、3年以上活動されている団体に対するステップアップコースというものがあり、お話を伺った限り、ステップアップコースの対象になると思われる。このコースは活動費の80%以内で50万円を上限に補助をするコースである。ただし、予算の制限があるため、プレゼン等を通じて運営しているNPO法人が資金の配分を決めていく形にはなるが、このような制度に応募いただくのも1つの方法かと思われる。

また、さがみはら市民活動サポートセンターという機関がけやき会館にあるが、そこでは市が主体ではなく、一般的に民間企業がやっている助成事業等の紹介を行っている。センターのスタッフは毎月第3水曜日には藤野の森ラボにきて、ご相談にも乗っているため、民間の助成制度を探してみるというのも1つの方法かと思う。

今、手元にあるもので探してみたところ、例えばセブンイレブン記念財団では、地域美化や自然環境の保護等の事業に対して助成をしており、応募して選考されれば1団体当たり最大100万円の助成を行っているようである。このような助成事業もあるため、活用できるものがないか、ご検討いただければと思う。

(榎本市民局長)

今、様々な部署から市の制度についてご案内させてもらったが、どこの窓口にご相談したら良いか分かりにくいと思う。その際は、是非まちづくりセンターにご相談いただければと思う。ご相談をいただいた際は、様々な制度をご案内できるようにしていきたい。

(石原緑区長)

地区の発言

たくさんアドバイスをいただき感謝申し上げます。

令和6年度に関しては現在の取組を継続する形を考えているが、令和7年度以降は新しい取組を考えていきたいと思っている。

今ご提案いただいたような支援金等は、一通りの検討はしていた。ただ、自分たちの取組は、人の力でできることに持続性があるのではないかとということで、あえて重機等は使わずに活動を行っている。活動を持続的にしていくために、ある程度の報酬を払っていかないと、人材が生まれてこないため、一番必要なのは人件費であるが、今ご提案いただいたものだと、やはりそこは解消できないと感じる。

いきなり行政に資金の支援をお願いすることは難しいと十分理解しているし、環境整備を全部市でやってくださいと言っても、マンパワーが足りないことも理解しているため、この隙間の部分を民間企業や行政のサポートを受けながら、埋めていけないかを考えている。お互いが歩み寄ってより良い方法がないか、活動しながら考えていきたい。

	<p>資料2の沢井川の環境整備の実施前と実施後の写真について、一見、綺麗に見えるが、本来の川底から1メートルくらいカヤが溜まっている状況である。活動していて分かったことだが、倒れたカヤが10年分くらい蓄積され、その上に自分たちが立っており、実際の河川ではなかった。今後手入れしていくことで、治水機能は回復していくと思うが、人力で掘り返すことが困難なため、さすがに重機を使用しなければならないと思っている。また、河川ののり面についても色々な木が生えているところだが、人力の作業には危険が伴い、素人には難しいため、市の方で対応可能なのか確認させていただきたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>今お話しにあった、河川に堆積した土砂等は、治水機能を損なうことから、大雨時に溢水（いっすい）する可能性もあるため、専門業者によって重機等も使用した河川浚渫（しゅんせつ）作業を実施してもらわなければならない。</p> <p>河川として指定されてるものは、国の補助等を活用しながら浚渫事業を行っているところである。沢井川については適用できないが、危険が伴うような場所については、できるだけ作業を避けていただき、市に連絡をいただきたい。そのような場所は市が専門業者に頼んで、安全対策を行った上で作業を行う。繰り返しになるが、危険な場所を見つけた場合は、一番近いまちづくりセンターや津久井土木事務所にご相談いただければと思う。</p> <p>また、市では、いつでも道路状況等を通報できる「パッ！撮るん。」というアプリを導入している。スマートフォン等で、アプリをダウンロードしていただき、状況を撮影した写真を送信していただくと、状況と位置情報が市に通報されるシステムである。「河川内の倒木」「土砂の堆積」「流水の阻害」等を入力し、登録していただくと、通報を受けた市で現場を見て対応する流れとなる。いただいた通報に対しては受信した旨の返信や対応結果について市から報告できるものとなっている。電話だと土日等は市役所に繋がらないが、アプリであれば時間を気にせず、連絡ができるため、是非ご活用いただければと思う。</p> <p style="text-align: right;">（山口都市建設局長）</p>
<p>地区の発言</p>	<p>2つのテーマについて、感想を述べさせていただく。</p> <p>まず、移動手段について、この地域は山あり谷ありで移動手段が非常に厳しい地域である。また、担い手も高齢化が進んでいるため、地域全体の課題として、地域で何かできないかを考えている。</p> <p>自分たちは10年くらい前から、10年後は高齢者ばかりになってしまうのではないかと思っていた。その時にできたのが「いくべえカー」である。</p> <p>河川の環境整備については、先日、自分も沢井川に行ったが、実際に1メートル以上のカヤが詰まってしまっていた。草刈り機で刈ったが、刈ったところしか綺麗にならなかった。今後も引き続き、ボランティアでやっていくしかないと考えている。</p> <p>また、藤野地区は鳥獣被害も多いため、山の麓の草刈りをしようと考えており、有志で人を集めている。鳥獣が、人間を警戒するような雰囲気を作っていこうと思っており、長期的な課題ではあるが、取り組んでいきたい。</p> <p>また、雪による倒木の問題もある。前もって処分してくれると、通行止め等が生じないため、先々を見据えた取組を考えていただければと思う。</p>

<p>地区の発言</p>	<p>昨年度の懇談会で懇談させていただいた名倉グラウンドについて、水曜日にも開放させていただいたおかげで、子ども達の利用も増えている。昨年度の懇談の成果が早速表れているため、感謝申し上げたい。引き続き、曜日の活用等継続的な対応策を考えていければと思う。</p>
--------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>市長の感想等</p>	<p>皆様には自助、共助、公助の中で、公助に対してご理解いただいております、誠に感謝申し上げます。先ほど宮野代表も「何か地域でできないか」と仰っていたが、こういう言葉が市内全域で出てくると相模原は変わると思う。藤野地区は自治会加入率も77%以上で、市内22地区の中で1位であるため、非常に地域コミュニティができており、移住者の方々もお迎えされ、良いコミュニティが築かれている理想の地域であると思う。藤野地区が、これから相模原の模範の地区なるのではないかと考えており、今後も行政と市民の皆様で対話をしながら、お互いできることを尽くし、フラットな関係にしていきたい。</p> <p>日頃から活動していただいている皆様には厚く御礼を申し上げます。私ももっと皆様の活動を知らなくてはいけないと思っている。是非、何かあった際は、藤野まちづくりセンターに相談いただきたい。私たちも、緑区長やまちづくりセンターの所長と情報共有をして取り組んでいきたいと思っている。昨年全まちづくりセンターの所長に各地区の課題等を聞く機会を作った。地域のことを一番よく知っているのはまちづくりセンターの所長だと思っているため、対話の機会を設け、地域課題等を勉強させてもらっている。是非、地域の皆様や地域おこし協力隊の皆様からも見たこと、感じたこと等、新しい目線で教えていただきたいと思う。</p> <p>先ほどお話にあった名倉グラウンドについては、学校から帰ると遊ぶ場所がないという話をいただく中で、遊び場の一つになっていると思っている。担当課にはグラウンドの状況や活用状況について、話をしており、私もなるべく地域の現状を勉強していきたいと思う。今後ご要望やご意見をどんどんお寄せいただき、良い地域にしていきたい。</p> <p>移動支援についても、様々なご意見をいただき感謝申し上げます。特に個人の自家用車を使って支援している取組に関心を持ったため、今後、現場や利用状況等を視察させていただきたい。先ほど説明したとおり「地域おでかけサポート推進事業」を令和5年度から開始し、「けんこう号」をこれまでのマイクロバス1台から、機動性の良い10人乗りのワゴン車3台に更新した。また、城山地区の若葉台住宅や新磯地区ではグリーンスローモビリティの実証実験として、地域の皆様に電気自動車をお預けし、運用も全て地域の方にお任せしている。先ほどお話のあったドライバーの確保や免許返納、高齢化等の課題も多いと思うが、是非そこは自助、共助、公助で協力をし合いながら取り組んでいただきたい。相模湖地区の懇談会において、ライドシェアを導入して欲しいという声が非常に多くあった。現在、国・県におけるライドシェアの取組について、保険加入の有無や飲酒運転を防ぐため確認体制について等、課題は様々あるが担当課で動向を注視している。市長になり、移動手段が非常に課題だと感じる中で、ライドシェアも一つの手段だと思っている。特に中山間地域の皆様は、家から公道に出るまでに坂がある等で買い物に行けない方がいると聞いている。だからこそ、ドア・ツー・ド</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

アが重要である。相模湖の内郷地区で、2月19日から2ヶ月間、乗合タクシーを活用した「ドア・ツー・ドア輸送」を行う予定である。このような実証を繰り返していきながら、この地域に一番合う形を見つけていければと思う。今後、部会に際しては是非、私どもも呼んでいただき、藤野地区に合う交通について是非検討していきたい。市の予算は、夏から秋頃には大体決まりつつあり、年末にはほぼ固まってしまう。そのため、来年度に新しい取組を考える場合は、遅くとも秋頃までにはご意見をいただきたいと思う。

河川の清掃等については、私たちの管理が行き届かず、皆様にお力添えいただいていることについて、感謝申し上げる。観光の面でも、陣馬山はナイトハイクが始まり、登山客も増えており、私も昨年山登りをしたが、高尾山より自慢できる山なのではないかと実は思っている。少し足りないのは、陣馬山を降りた後の交通手段だと感じている。できれば八王子市とも協力して、八王子から相模原に、相模原から八王子に相互で観光客が流れるようなアプローチができないか考えている。そのような中で、観光客の方にもう一度訪れたいと思ってもらうためには、景観が綺麗なことが必要だと思っている。先ほど紹介のあった、地域活性化事業交付金については、私も少し使いづらいところがあると思っている。緑区は比較的活用してもらっているが、南区や中央区では活用されていないケースが多いため、もっと使いやすく、そして事業継続ができるように、もう一度よく議論していきたい。

藤野地区は宮野代表自ら「地域で何かできないか」と言っている地域であるため、是非皆さんからいろんな提案、提言をしていただきたい。私も法律や条例に縛られているため、できないこともあるが、まずはボールを投げたい。地域の議員さんとも対話しながら、皆様と一緒に藤野ならではの公共交通や環境整備ができるよう取り組んでいければと思う。

今後、「藤野から相模原を変えていこう」というぐらいの勢いで、色々なご提案、ご提言をいただきたい。私は藤野から相模原を元気にできる力があると思っているため、引き続き、皆様にお力添えいただきたい。

(本村市長)